令和６年度(前期日程)

入学者選抜学力検査問題

国　　語

(国語総合・現代文Ｂ・古典Ｂ)

試　験　時　間　　120 分

文学部，教育学部，法学部，医学部(保健学科看護学専攻)

問　題　　ページ

一～四……1～11

注　意　事　項

1. 試験開始の合図があるまで，この冊子を開いてはいけません。
2. **各解答紙の２箇所に受験番号を必ず記入しなさい。**

   なお，解答紙には，必要事項以外は記入してはいけません。
3. **解答は，必ず解答紙の指定された場所に記入しなさい。**
4. 試験開始後，この冊子又は解答紙に落丁・乱丁及び印刷の不鮮明な箇所などがあれば，手を挙げて監督者に知らせなさい。
5. この冊子の白紙と余白部分は，適宜下書きに使用してもかまいません。
6. この冊子をとめている針金は，解答時に取りはずしてもかまいません。
7. 試験終了後，解答紙は持ち帰ってはいけません。
8. 試験終了後，この冊子は持ち帰りなさい。

※この冊子の中に解答紙が挟み込んであります。

一

次の文章を読んで、後の問に答えよ。

多くの人には「知識なり、技能なりは伝えることができる」という信念があると思う。先生なりシショウなりが、何らかの適切な方法を使えば、彼らの中にある知識、技能が、生徒、弟子に伝わるはずだ、と考えている。つまり、知識は持ち運んだり、誰かに渡したり、誰かから受け取ったりできることを意味する。実際、何かを教わってできるようになった経験は誰にでもあるだろうから、知識は受け渡しが可能であると考える人は多いと思う。

こうした信念の表れは「図書館は知識の宝庫だ」、「本は知識の泉だ」などという言葉にも表れている。書籍には先人が発見した、獲得した知識が記載されており、それを読むことで知識が得られると考える。また学校では知識や技能を教えると言われる。先生は教科書を使い、さまざまな事柄を教える。漢字の読み方、北斗七星の現れる場所と時期、因数分解の仕方、ブレトン・ウッズ体制、さらには給食の食べ方まで、いろいろな種類、構造の知識を伝えようとして努力されている。これは知識は誰かから誰かへ伝わると信じているからだ。

ところが、①残念ながらそうではない。書物は知識を文字に表したものであり、それ自身は知識ではない。「リンゴ」という文字、言葉が、本物のリンゴではないのと同じことだ。だから書物を読んでも、そこから知識を得ることはできないのだ。それが表すのは「情報」であり、もしそれを覚えたとすれば「記憶」となる。同様に、先生たちは知識を教えているのではない。それは右の例と同じ理由だ。先生が伝えるのは情報で、運良く生徒がそれを覚えればその生徒の記憶となる。しかしそれらは伝えられただけであり、もしそのままならば単に記憶、情報としてとどまるだけなのだ。

★ここまで読んでこられた読者は、「お前の言う知識とはなんなんだ」と言いたくなると思う。伝統的な哲学では、「正当化された、真なる信念」と言われる。キーワードが3つあり、それが知識の3つの条件となっている。第一に、「真なる」という言葉が示すように、それは真、つまり正しくなくてはならない。第二に、「信念」というわけだから、それを信じていなくてはならない。そして最後に、「正当化された」とあり、それは真である根拠が存在するということである。

ただ私はここでそういう知識を取り上げたいわけではない。有用な知識について考えてみたいのだ。役立つ、意味のある知識といってもよい。というのも、右の定義で言うと「私の目の前のクレジットカードの上にUSBメモリーがある」というのも知識になるからだ（証拠として写真を載せてもいいのだが、インクの無駄になるのでやめておく）。これは私以外の人にはなんの役にも立たないし、意味もない。つまり、有用ではないからだ。

さて別の本（イセッチョ『教養としての認知科学』東京大学出版会）に書いたことだが、有用性を持つ知識というのは、以下に述べる3つの性質を持っていなければならないと思う。1つめは一般性である。一般性とは簡単に言うといろいろな場面で使えるという性質を指す。ウガンダの

首都は多くの日本人にとって使う場面はほとんどない。せいぜい早押しクイズのような場面でしか使えない。そうしたものは一般性を持つとは言えない。重力加速度が9・8m／s^2ということを覚えるだけであれば、小学生でもできるだろう。しかしそれは知識ではない。それを用いて考えることができないからだ。

もう1つの性質は関係性である。(ウ)コリツした知識はほとんど何の役にも立たない。知識というのは他の知識とリッチな関係を持っていなければならない。昔日曜日の朝早く電車に乗っていたら、これから(エ)ジュクに行く小学生たちが、「イワンの馬鹿」、「トルストイ」、「赤と黒」、「スタンダール」などと言い合っていた。これは本当に意味がない。イワンの馬鹿がどんな小説であり、トルストイがどんな人物であるのか、どんな時代に生きたのか、なぜトルストイはそんな小説を書いたのか、原題となったものは何か、そういうことが繋がらなければ、クイズ王くらいにしかなれない。

最後は場面応答性である。知識はそれが必要とされる場面において発動、起動されなければならないというのが場面応答性である。重力加速度についての知識は、それが必要となる場面で、例えば落下物体の速度を求めるという場面で起動しなければならない。恋人のことを考える時、テレビのチャンネルを変える時にそれが発動しても役に立たない。

このように知識を捉えると、ある事柄が伝えられた途端、知識として定着することは原則的にないことが(オ)ヨウイに理解できるだろう。伝えられた事柄、本で読んだ事柄がどのような範囲をカバーするのか、それは他の知識とどう関係するのか、そしてどこで使われるのか、そうしたことを考える作業を行わない限り、その事柄は単に記憶としてしか存在せず、知識とはならないのだ。

こういう考え方を構成主義（constructivism）と言う。相手からの情報、その記憶が知識となるためには、それらの素材を用いて知識として構成していかなければならないのだ。構成するのはもちろんあなただ。あなたのこれまでの経験は人と異なるだろうし、これから出会いそうな場面も異なるだろうから、構成される知識は人によって少しずつ異なってくる。より多くの関連した知識と結びつきを作ったり、その知識がカバーする事柄をたくさん経験した人が構成する知識は、単にクイズのように覚えた人のそれとはまったく異なったものとなる。難しい言葉で言えば、知識というものは「属人的」なものなのだ。

いくつか補足しておきたい。「自分で考えて」と言ったが、それは何も意識的に考えることだけを意味するわけではない。私たちには無意識の働きというものがある。これが勝手に、それまでに貯(たくわ)えたいろいろな他の知識との結びつきを作ってくれるし、それが働く場所も勝手に見つけてくれる場合も多々ある。頭を抱えて「この知識はどこで使えるのだ、他とどんな関係があるのだ」と悩まなくてもよいことも多い。そういう意味で「知識は創発する」と言ってもよいだろう。

もう一つは伝えられたことについてすぐに「なるほど」と思えるようなケースについてである。この場合は、伝えられた情報、あるいはその記憶から知識を構成するために十分な経験や関連した知識が存在している。だから努力している人へのアドバイスは、すぐに伝わるように見え

るのだ。ちなみにこうしたことが自動的に行われる経験が、知識が伝達可能であるという信念を支えているのだと思う。一方で何もやっていない人には、同じことを言っても何も伝わらない。せいぜい記憶にとどまるだけだ。

最後の一つは、では記憶はなんの意味もないのか、ということについてである。それは「ある」、というか「ある時もある」というのが答えだ。さっぱり経験のない段階で何かのことを教わっても、ほとんどそれは意味がない。しかし、あなたは成長する、経験を重ねる。こうした段階になると、昔はちんぷんかんぷんだったことが意味を持つようになることがある。だから情報の伝達、その記憶が意味がないというわけではない。

子供も含めた学習途上の人間が②知識を作るなどという大それたことなどできるはずはないと考える人たちはたくさんいると思う。しかし、そうではないことは人間の歴史が証明している。未知の問題を解決しようと努力している科学者たちは、その途中では誰も解はわかっていない。解決に必要な知識も十分ではないというか、何が必要な知識かもわからない。しかし集団の力でそれを作り出してきたのだ。同じことはより小さな組織、学級、会社などにおいても実際に起きている。だから子供は成長するし、会社は事業を続けるし、人類は進歩する。ここでは協働、つまり集団の力というものが大きい。

（鈴木宏昭『私たちはどう学んでいるのか　創発から見る認知の変化』による）

問一　傍線部㋐から㋓の片仮名を漢字に直せ。

問二　★の段落（「ここまで読んでこられた読者は」から「ということである。」まで）を筆者が書いた意図の説明として、最も適切なものを次から選び、記号で答えよ。

ア　読者の無知を指摘した上で、定評のある知識観を提示し、先の論述内容との一貫性を強調している。

イ　読者の認識の多様性に共感しながら、自分の主張と競合する知識観を提示し、先の展開を明確化している。

ウ　読者の困惑を代弁した上で、伝統的な哲学に基づくことの重要性を指摘し、先の論述内容についての信頼性を担保している。

エ　読者の認識に沿いながら、あえて自分の主張とは異なる知識観を提示し、先の展開への関心を喚起している。

問三　傍線部①「残念ながらそうではない」とはどういうことか。知識についての一般的な信念に対する筆者の考えを、わかりやすく説明せよ。

問四　傍線部②「知識を作る」とはどういうことか。本文全体を踏まえて、わかりやすく説明せよ。

二　次の文章は、ある小説の一部である。小説中のお延（のぶ）は夫が逗留（とうりゅう）する温泉場の宿を訪ねたが、夫の自分への態度に深く失望した末に、宿を離れてさまよう。読んで、後の問に答えよ。

著作権保護の観点から，

問題文は掲載していません。

著作権保護の観点から，

問題文は掲載していません。

著作権保護の観点から，

問題文は掲載していません。

（水村美苗『続 明暗』による）

（注）
奔湍……急流のこと。奔流。早瀬。
軽便……軽便鉄道。線路幅の狭い小規模の鉄道のこと。
毫も……ほんの少しも。わずかも。
婉媛……優美である様子。あでやかで美しいさま。
小林……お延の夫の友人。文中の台詞は、かつてお延と小林が交わした会話。
塵界……汚れた俗世界。俗世間。
無辺際……果てしなく広大で限りがないこと。

問五　傍線部①について、ここで語られるお延の心理はどのような状態か。ここまでのお延の行動と心理の変化を踏まえて、わかりやすく説明せよ。

問六　傍線部②が指す内容を簡潔に表した表現を、本文中から一〇字以内（句読点を含まない）で抜き出せ。

問七　本文中での「自然」とは、どのような存在として語られているか。お延との関係に言及した上で、わかりやすく説明せよ。

三

次の文章は、源義経が兄頼朝と不和となり、都を追われて、奈良の吉野山に身を隠す場面である。読んで、後の問に答えよ。

都に春は来たれども、吉野はいまだ冬籠る。況んや年の暮れなれば、谷の小川も氷柱にて、一方ならぬ山路なれども、※判官飽かぬ名残を棄てかねて、※静をこれまで具せられたり。様々の難所を経て、一二三の※迫、三四の峠、杉の壇といふ所まで分け入り給ひけり。

※武蔵坊申しけるは、「この君の御供申して、※不足なく見する者は面倒なり。※四国の時も、一船に十余人取り乗せ奉り給ひて、心安くもなかりしに、この深山まで具足し給ふこそ心得ね。かく御供し歩きて、麓の里へも聞こえなば、賤しき奴ばらが手にかかりなどして、射殺されて名を流さん事は、口惜しかるべし。いかが計らふ、※片岡。①いざや一先づ落ちて身をも助けん」と申しければ、「それも流石いかがあるべからん。ただ目な見合はせそ」とぞ申しける。判官聞き給ひて、心苦しき事にぞ思し召しける。静が名残を棄てじとすれば、これらに仲を違ひぬべし。またこれらが仲を違はじとすれば、静が名残も棄てがたし。とにかくに心を砕き給ひつつ、涙に咽び給ひけり。

判官、武蔵坊を召して仰せられけるは、「人々の心中を義経知らぬ事はなけれども、僅かの契りを棄てかねて、これまで女を具しつるこそ、②身ながらもげに心得ね。これより静を都へ帰さばやと思ふはいかがあるべき」。武蔵坊畏まり申しけるは、「③これこそゆゆしき御計らひ候ふよ。弁慶もかくこそ申したく候ひつれども、畏れをなし参らせてこそ候ひつるに、か様に思し召し立ち候はば、日の暮れ候はぬ先に、疾く疾く御急ぎ候へ」と申せば、「何しに帰さん」と言ひて、また「思ひは帰さじ」と言はんことも、侍共の心中いかにぞやと思はれければ、力及ばず。静を都へ帰されけり。

（『義経記』による）

（注）　判官……検非違使の尉。ここでは源義経をいう。
静……静御前。義経が寵愛した女性。
迫……谷。
武蔵坊……義経の家来、弁慶。
不足なく見する……何不足なくお世話する、の意。
四国の時……都落ちして四国に逃れようとした時。
片岡……義経の家来、片岡八郎経春。

問八　二重傍線部「参らせ」について、(1)敬語の種類と、(2)誰から誰に対する敬意かを答えよ。

問九　傍線部①について、何のために、どうすることを提案しているか。わかりやすく説明せよ。

問十　傍線部②③を現代語訳せよ。

問十一　波線部について、判官が涙を流した理由をわかりやすく説明せよ。

四

次の文章を読んで、後の問に答えよ。ただし、返り点と送り仮名を一部省略してある。

蜀有二※白衣一、以二※栴檀函一貯二観世音金像一、繋二※頸髪中一。※値二※姚萇寇一レ蜀、此人身在レ陣、臨レ戦正与※レ萇。※手自Ⓐ斫レ之。①其唯聞二※頸中鏗然有レ声、都不レ覚レ痛。

既得二散走一、逃入二林中一。賊去、解レ髪視レ函、函形如㋐故。開出見レ像、身有二※破瘡痕一。始悟向者之声是中㋑像。其人悲感、寧Ⓑ傷二我身一、反損二聖形一。

②※益悟二慈霊一、後倍精進。

（『繋観世音応験記』による）

（注）
白衣……出家していない俗世の人。
栴檀……香木の名。ビャクダン科の常緑樹。芳香が高く、薬材としても用いる。
頸髪……うなじに生えた髪。
姚萇……五胡十六国の一つ、後秦の初代皇帝（三三〇―三九三）。
与……相手にして戦う。
斫……刀や斧でたちきる。ここでは姚萇が白衣に斬りかかったことをいう。
鏗然……金属や石などの硬いものがぶつかりあって高く響くさま。
破瘡痕……破損したところ。
慈霊……慈悲深い仏の御心。

問十二　傍線部Ⓐ Ⓑの読み仮名を、歴史的仮名遣いの平仮名で記せ。

問十三　傍線部㋐「如故」について、平仮名で書き下した場合に最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えよ。

ア　もとにしかず　　イ　ゆゑにしかず　　ウ　しかるがゆゑなり
エ　もしことさらなり　　オ　もとのごとし　　カ　ことさらのごとし

問十四　傍線部㋑「中」と最も近い意味で「中」が用いられているものを次の中から一つ選び、記号で答えよ。

ア　中興　　イ　中華　　ウ　中枢　　エ　中毒　　オ　中庸

問十五　傍線部①を現代語訳せよ。

問十六　傍線部②はどういうことか。本文全体を踏まえて、わかりやすく説明せよ。